

育成したい資質・能力を 意識した指導と評価

北海道長万部高等学校

木村 圭祐

kimura.keisuke@hokkaido-c.ed.jp

育成したい資質・能力

- ・ **知識及び技能**が習得されるようにすること
- ・ **思考力, 判断力, 表現力等**を育成すること
- ・ **学びに向かう力, 人間性等**を涵養すること

文部科学省(2018) 総則第1章第1款3

学習改善・指導改善のために

- (1) 各観点を意識した指導・評価を行う**
- (2) 单元ごと等、中期的なタイミングで評価する**
- (3) Performance Testを計画的に実施する**

(1) 観点別評価

- 生徒の**学習状況の把握**と**指導の改善**が目的
- 各観点の学習/習熟状況を見取るための**計画**が必要
- 評定の算出方法は**学校事情**や**指導方針**に応じて

観点	評価	備考
関心・意欲・態度	A / B / C	• 各観点の評価は、各観点で見取った評価(a/b/c)の小計 • 評定は、評価の合計
外国語表現の能力	A / B / C	
外国語理解の能力	A / B / C	
知識・理解	A / B / C	

(2) 学習評価についての考え方

学習評価の改善の基本的な方向性

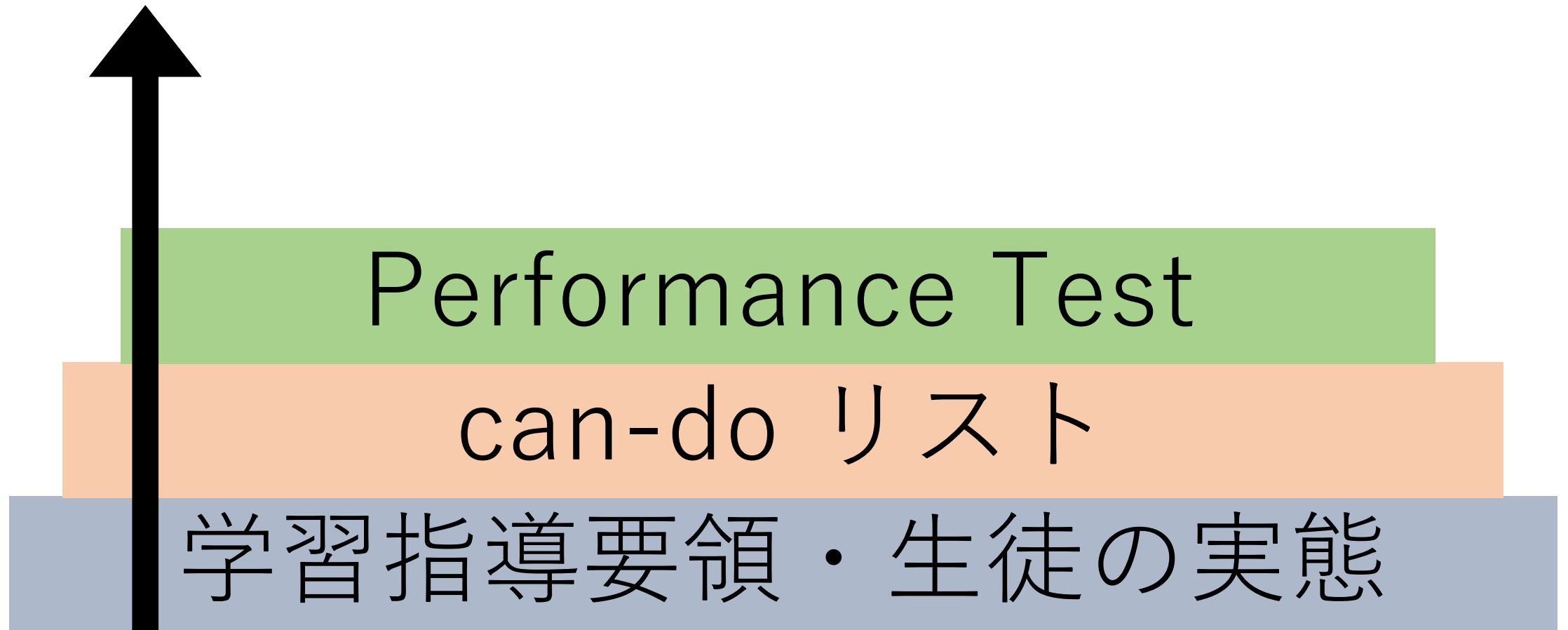
- 【1】 児童生徒の**学習改善**につながるものにしていくこと
- 【2】 教師の**指導改善**につながるものにしていくこと
- 【3】 これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

文部科学省(2019)



中期的な**指導・評価・改善・計画**のサイクル

(3) Performance Test計画時の留意点



(3) Performance Test計画時の留意点

Backward Design
Wiggins & McTighe (2018)

1. 求められている
結果を明確にする

**can-doリストの
能力記述文の作成**

2. 承認できる証拠
を決定する

**評価方法及び
評価規準/基準の決定
(Performance Test)**

3. 学習経験と指
導を計画する。

Taskの検討

長万部高校の取り組み

1つのLessonに 1つのPerformance Test

- 生徒がLessonの**目標を意識**しやすい
- 身近なcan-doリスト ⇒ **理想イメージ**の把握
- **短いサイクル**での学習改善/指導改善

長万部高校の取り組み

授業を計画する流れ

Lessonの計画手順

- (1) Performance Testの
評価規準/基準を作成する
- (2)
 - ・ 必要なTaskや帯活動を考える
 - ・ 教科書本文を活用するタイミングを考える
 - ・ 重要表現/文法の指導タイミングを考える
 - ・ Lessonの導入方法を考える

授業を実施する流れ

Performance Testで測る力

現行学習指導要領

- (1) コミュニケーションに関する関心・意欲・態度
- (2) 外国語表現の能力
- (3) 外国語理解の能力
- (4) 言語や文化についての知識・理解

新学習指導要領（2022～）

- (1) 知識及び**技能**
- (2) **思考・判断・表現**
- (3) 主体的に学習に取り組む態度

深い学び実現のために

「各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせるようにする。」

「教師が教える場面と子どもたちに**思考・判断・表現**させる場面を、効果的に関連させながら指導していく。」

(栃木県総合教育センター, 2018)

思考・判断・表現をさせるために

- ・ワクワク感
- ・information gap
- ・発問の使い分け
- ・多様な思考・答えに対する容認度の高さ
- ・教科書で教える, not 教科書を教える



深い学びへ

参考資料

栃木県総合教育センター. (2017). 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（理論編）」. https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/h29_jyugyokaizen/

(2019/9/16)

文部科学省. (2018). 『高等学校学習指導要領』. 東京: 文部科学省

文部科学省. (2019). 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」 http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm

(2019/9/16)

Wiggins, G.& McTighe, J. (2018). *Understanding by design 理解をもたらすカリキュラム設計*. (K. Nishioka 西岡加名恵, Trans.).

Tokyo: Nihonhyojun 日本標準.

教科名	外国語	単位数	3		担当	木村
科目名	コミュニケーション英語 I	必修 選択	必修	選択	学年(学科)	1年
科目の 目標	・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。					
教科書 副教材等	NEW ONE WORLD Communication I Revised Edition (教育出版) NEW ONE WORLD Communication I Workbook (教育出版)					
選択対象者						
1 学習の目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 ・自分の学習状況を分析し、自律的に言語を学ぼうとすることができる。 ・聞いたり読んだりして、情報や考えなどの概要を捉えることができる。 ・話したり書いたりして、情報や考えなどを簡単に伝えることができる。 ・言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。 						
2 授業内容						
各 Lesson 末に、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングのいずれかのパフォーマンステストを行う。授業内では、予め知らされているパフォーマンステストの評価規準を達成するために、練習に取り組む。また、聞いたり読んだりした内容について考え、その意見を他者と交流させる。						
3 授業の進め方						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を聞いて（あるいは読んで）、本文の概要を理解する。 ・聞いた内容（あるいは読んだ内容）について、考える。 ・自分の考えた意見を、他者と共有する。 ・語句の意味や重要な表現、重要な文法項目について学習し、理解する。 ・自分の考えを書いて（あるいは話して）表現する。 						
4 評価の規準						
<p>(1) 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 ※リフレクションシート</p> <p>(2) 【外国語表現の能力】 英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 (CAN-DO Listに対応) ※パフォーマンステスト、定期考査</p> <p>(3) 【外国語理解の能力】 英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 (CAN-DO Listに対応) ※パフォーマンステスト、定期考査</p> <p>(4) 【言語や文化についての知識・理解】 英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。 ※小テスト、定期考査</p>						
5 評価の方法						
・【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】、【外国語表現の能力】、【外国語理解の能力】、【言語や文化についての知識・理解】の4つの観点に基づいて、総合的に評価する。						
6 言語活動						
<p>(a) 教科書や資料を読み取り、理解する【読む】</p> <p>(b) 相手が話す内容を聞き取り、理解する【聞く】</p> <p>(c) 課題意識を持ち、それを解決することで、知識をより深める【思考・工夫】</p> <p>(d) 課題に応じて、様々な資料を読み、解決する【調べる】</p> <p>(e) 書くことにより自己の考えを表現する【書く】</p> <p>(f) 述べたり発表したりすることにより、自己の考えを表現する【話す】</p>						

7 授業計画								
月	領域・単元 (時数)	学習内容	各単元における評価	【観点別】				【言語活動】
				1	2	3	4	
4	Lesson 1 Let's See the	<R4>補助(辞書や視覚情報、教員の説明)があれば、教科書程度の難易度の英文の概要や要	<R4>教科書程度の難易度の英文を提示し、要点を把握できるかどうかを確認する。Q&Aの正答数で採	○	◎	◎	○	abcdef

5	World (8)	点を理解できる。 〈L2〉簡単な指示を理解し、その通りに動くことができる。	点する。辞書使用可能。 〈L2〉教員が発した classroom English に対して、指示通りに行動できるかどうかを確認する。自己評価で採点する。						
6	Lesson2 Bread Culture in Japan (10)	〈SI1〉身の周りのこと（自分・時間・場所）や、興味のあること（スポーツ・食べ物・趣味等）について、質問したり答えたりすることができる。	〈SI1〉生徒同士でインタビューとその応答を行わせ、質問及び応答ができていくかどうかを確認する。録画し、評価基準と照らし合わせて教員が採点する。	○	◎	○	○		abcdef
7	Lesson3 Why do Cats Purr? (12)	〈W1〉身の周りのことについて、メモや短いメッセージ等を簡潔に書くことができる。 〈W2〉単元ごとのテーマに関して、自分の考えや意見を短い英語の文章で表現できる。	〈W1〉教員が提示する課題について、メッセージャーを模したワークシート上で会話を行えるかどうかを確認する。ワークシートを奇襲し、評価基準と照らし合わせて教員が採点する。 〈W2〉教員からの課題について、メール画面を模したワークシート上で自分の考えを表現できるかを確認する。ワークシートを回収し、評価基準と照らし合わせて教員が採点する。	○	◎	○	○		abcdef
8									
9									
10	Lesson4 The Power of Anime (7)	〈L1〉身近な話題について、補助（視覚情報、日本語での説明、ジェスチャー、ゆっくりはっきり）を交えて話されれば、理解できる。	〈L1〉教科書内容と関連する話題について教員が話、その要点を把握できるかどうかを確認する。Q&A の正答数で採点する。	○	○	◎	○		abcdef
11	Lesson5 Projects with a Difference (12)	〈SP1〉準備時間があれば、身の周りのことについて、簡潔に説明・意見・描写することができる。	〈SP1〉好きなこと・ものについて show&tell を行う。録画し、評価基準と照らし合わせて教員が採点する。	○	◎	○	○		abcdef
12	Lesson6 We Are the World (10)	〈R1〉繰り返し練習した後であれば、正しい発音とイントネーションを意識して、大きな声で音読できる。	〈R1〉生徒の文章音読を録音し、評価基準と照らし合わせて教員が採点する。	○	◎	○	○		abcdef
1	Lesson7 Learning about Science around You (12)	〈R2〉身近な話題について簡単な語句を用いて書かれた、短い文を理解できる。	〈R2〉身の周りの機械の簡単な説明書を読み、理解できているかどうかを確認する。Q&A の正答数で採点する。	○	○	◎	○		abcdef
2	Lesson8 The Ninth Symphony in December (12)	〈SI2〉相手の話すことを、うなずいたり、相槌をうちながら聴くことができる。 〈SI3〉聞き返しや時間稼ぎ Communication Strategy を使用することができる。	〈SI2〉〈SI3〉年末年始等について2人1組で会話をさせる。その様子を録画し、評価基準と照らし合わせて教員が採点する。	○	◎	○	○		abcdef
3	Lesson9 The Spirit of the Modern Olympics (10)	〈R3〉簡単なポスターやチラシ等を読み、その内容を理解できる。	〈R3〉イベントのチラシを提示し、時・場所等の情報を読み取れるかどうかを確認する。Q&A の正答数で採点する。	○	○	◎	○		abcdef
	Lesson10 What is Globalization? (12)	〈SP1〉準備時間があれば、身の周りのことについて簡潔に説明・意見・描写することができる。	〈SP1〉身の周りで発見した「グローバル化されているもの」について、説明できるかどうかを確認する。録画し、評価基準と照らし合わせて教員が採点する。	○	◎	○	○		abcdef

学年 [CEFR-J] (英検級)	該当科目	Listening	Reading	Writing	Speaking (発表)	Speaking (やりとり)	Attitude
1年 [A1.1] [A1.2] (英検3級)	・コミュニケーション英語Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、補助（視覚情報、日本語での説明、ジェスチャー、ゆっくりはっきり）を交えて話されれば、理解できる。〈L1〉 簡単な指示（Stand up./ Make groups. / Share your ideas. / Open your text book. 等）を理解し、その通りに動くことができる。〈L2〉 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し練習した後であれば、正しい発音とイントネーションを意識して、大きな声で音読できる。〈R1〉 身近な話題について簡単な語を用いて書かれた、非常に短い文を理解できる。〈R2〉 簡単なポスターやチラシ等を読み、その内容を理解できる。〈R3〉 補助（辞書や視覚情報、教員の説明）があれば、教科書程度の難易度の英文の概要や要点を理解できる。〈R4〉 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて、メモや短いメッセージ等を簡潔に書くことができる。〈W1〉 単元ごとのテーマに関して、自分の考えや意見を短い英語の文章で表現できる。〈W2〉 	<ul style="list-style-type: none"> 準備時間があれば、身の回りのことについて、簡潔に説明・意見・描写することができる。〈SP1〉 正しい発音で英語を話そうとすることができる。〈SP2〉 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのこと（自分・時間・場所）や興味のあること（スポーツ・食べ物・趣味等）について、質問したり答えたりすることができる。〈S1〉 相手の話すことを、うなずいたり、相槌を打ちながら聴くことができる。〈S2〉 聞き返しや時間稼ぎの communication strategy を使用することができる。〈S3〉 	<ul style="list-style-type: none"> 間違いを恐れずに活動できる。〈I1〉 授業内で英語を使い、コミュニケーションができる。〈I2〉
2年 [A1.3] [A2.1] (英検準2級)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅰ（進学コース） 	<ul style="list-style-type: none"> 店や駅、乗り物等の公共の場所での指示・放送を、補助（視覚情報、説明、ジェスチャー、ゆっくりはっきり）を交えて話されれば、理解できる。〈L3〉 旅行や宿題提出等の計画について、補助（説明、ジェスチャー、ゆっくりはっきり）を交えて話されれば、理解できる。〈L4〉 	<ul style="list-style-type: none"> モデル音声を聞けば、正しい発音とイントネーションを意識して、大きな声で音読できる。〈R5〉 簡単な語を用いて書かれた短い物語や説明文を理解できる。〈R6〉 補助（辞書や視覚情報）があれば、教科書程度の難易度の英文の概要や要点を理解できる。〈R7〉 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて、短いメッセージを用いて、相手とやりとりができる。〈W3〉 単元ごとのテーマに関して、自分の考えや意見を、簡単な接続詞を活用して表現できる。〈W4〉 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚情報やジェスチャー等を利用し、身の回りのことについて簡潔に説明・意見・描写することができる。〈SP3〉 不自然であっても、正しい発音で英語を話すことができる。〈SP4〉 順序を表す表現（first, then, next 等）を使うことができる。〈SP5〉 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いを通して、時間や場所等の予定を決めることができる。〈S4〉 人を誘うこと、誘いを受ける・断ることができる。〈S5〉 言い換えの communication strategy を使用することができる。〈S6〉 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内でたくさんの英語を使い、コミュニケーションができる。〈I3〉
3年 [A2.2] [B1.1] [B1.2] (英検2級)	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション英語Ⅲ（進学コース） 英語会話（進学コース） 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、はっきりと発音されれば、指示や説明を理解できる。〈L5〉 店や駅、乗り物等の公共の場所での指示・放送の要点を、自然な速さで聴いて理解できる。〈L6〉 	<ul style="list-style-type: none"> モデル音声を聞かなくても、正しい発音とアクセントを意識して、大きな声で音読できる。〈R8〉 未知語の意味を推測して、初めて読む英文の概要や要点を理解できる。〈R9〉 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのことについて、接続詞を活用して正しい英語で表現できる。〈W5〉 単元ごとのテーマに関して、自分の考えや意見を、文章の構成を意識して表現できる。〈W6〉 	<ul style="list-style-type: none"> 即興で、身の回りのことについて説明・意見・描写することができる。〈SP6〉 自然な正しい発音で英語を話すことができる。〈SP7〉 準備時間があれば、内容の順序や因果関係に気をつけて、興味のあることについて話すことができる。〈SP8〉 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について、簡単な英語を幅広く使って、会話を続けることができる。〈S7〉 簡単な英語で、賛成反対の意見とその理由を伝えることができる。〈S8〉 駅や店、路上等の公共の場所で、知らない人に対して、確認や説明をすることができる。〈S9〉 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で基本的には英語のみを使い、コミュニケーションしようとするすることができる。〈I4〉
評価方法		<ul style="list-style-type: none"> 授業での取組（観察） パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での取組（観察） 定期考査（リーディング問題） パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での取組（観察） 定期考査（ライティング問題） パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での取組（観察） パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での取組（観察） パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での取組（観察） リフレクションシート